

第8期

事業報告書
決算報告書

自 平成31年 4月 1日
至 令和 2年 3月 31日

公益財団法人 復 康 会

令和元年度 事業報告書

も く じ

I. 今期の概況	1
II. 事業活動	1
III. 理事会・評議員会の開催	3
IV. 活動報告	
[1] 軽費診療	4
[2] 精神保健相談・健康相談活動	4
[3] 研究発表	5
V. 医療活動	
[沼津中央病院グループ]	7
[鷹岡病院グループ]	13
[沼津リハビリテーション病院グループ]	16
VI. 福祉活動	
[本部・社会復帰事業部]	19
VII. 地域貢献活動	
[1] 講演開催状況	23
[2] 嘱託医の受託	25
[3] 実習病院の受託	25
[4] 大学・看護学校等への講師派遣	27
[5] 関連諸団体の活動	27
[6] 公的機関の医療・福祉活動への協力	28
[7] 受託事業	30
VIII. 職員配置状況	31

I. 今期の概況

平成31年度・令和元年度（5月より）は、年度末に中国武漢市で発生した新型コロナウイルスによる感染症が爆発的に世界に広がり多くの死者を出す事態となった。日本でも全国的に感染者が急増し国が緊急事態宣言を発令する事態となった。法人も医療機関として感染予防対応に追われることとなった。幸い緊急事態宣言は一部の都府県を除き現在解除されたが、まだ感染収束にはいたっていない。法人の全職員は今後も「コロナに感染しない、人にも感染させない」を心に命じて事業継続をしていきたいと考えている。

今期法人の事業運営に関しては、医療の質の向上、地域連携、社会貢献、人材育成、利用者への支援体制等に関しては、各組織が十分に努力を重ね成果を得たと考えている。しかし今期の最重要課題であった収益力の強化による黒字化については、沼津中央病院グループ、沼津リハビリテーション病院グループ、社会復帰事業部は、ほぼ目標達成となったが、本部経費を充当出来るだけの収益には到達していない。また鷹岡病院グループについては、33床減床し151床となったが実働出来る届け出病床は、現在133床で10月から3病棟体制で稼働がスタートした。入院受け入れも改善がみられているが、医師・看護師の人材不足が完全には解消出来ず、改修目的であった精神科救急入院料病棟（38床）の完全運用ができず、赤字幅縮小に留まった。次年度は、この救急入院料病棟の定床運用に向けて、法人としてプロジェクトチームを作り経営改善を図る予定である。

重点項目1 「収益力の強化、各組織の目標としている病床稼働率の達成」

経費削減、病床稼働率上昇への努力も各組織でされたが、法人全体として黒字化は達成出来ていない。次年度鷹岡病院の黒字化に向けて、法人全体で取り組む予定である。

重点項目2 「適正な人材確保と職員個々の実力発揮、生きがい創出」

国の「働き方改革」への対応として、労働時間の把握の方策を定め、「同一労働同一賃金」への対応として、顧問弁護士のアドバイスを受け就業規則・規定の改正を行った。人材活用の見直し、採用の努力、職員の専門的な能力開発への取り組みは次年度も継続していく。

重点項目3 「専門医療の質の向上、利用者の「生きたい人生」に焦点を合わせた医療の提供」

精神科救急医療の基幹病院としての体制整備、休日夜間電話相談事業はきちんと実施され、平日の無料相談事業も十分に社会貢献出来ている。社会生活支援体制（活動支援、共同生活援助、就労支援）整備、訪問看護や訪問リハビリテーションの整備は順調に進み、また今期ピアサポーター2名を法人で雇用し退院支援の大きな力になっている。

重点項目4 「地域連携と社会貢献」

沼津リハビリテーション病院における沼津市の一時救急医療の当番担当、精神科救急の基幹病院、認知症疾患医療センターとしての機能、地域医療機関や社会資源との連携は十分に機能を果たした。

医療に従事する各専門職の教育や育成事業への協力は当法人でなければ果たせない分野も多く、社会貢献として大きな役割を果たした。災害派遣精神医療チーム、災害拠点精神科病院への申請は現在沼津中央病院で取り組み中である。

II. 事業活動

1. [公益目的事業]

- ① 地域に必要な専門分野の医療サービスを提供する事業

- ・沼津中央病院
精神科救急医療体制整備事業における常時対応施設と休日夜間電話相談の充実を図り、長期入院者が地域で生活できるための基盤整備として、住居型施設のセジュール新大橋を稼働させ法人内グループホームの有効活用に繋げた。
 - ・鷹岡病院
精神科救急医療への地域のニーズに応えるための精神科救急病床増設に向けた病棟の改修工事が終わり、重度慢性患者の対応が可能となった。「グループホームふじみ」や「サポートセンターほっと」と連携・協力し、富士地区の医療サービス向上に取り組んでいる。
 - ・沼津リハビリテーション病院
回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。
療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。
- ② 障害福祉サービス事業
- ・社会復帰施設
サポートセンターでは、利用者が安心できる場所を提供できるよう心掛け、創作活動、軽スポーツなどの趣味的活動や料理教室、買い物ツアーなどの生活支援を組み合わせるなど工夫しながら取り組んできた。また、地域行事への参加やピア活動への協力、ボランティアの受け入れなど、地域に開かれたセンター運営を行った。
- ③ 介護サービス事業
- ・通所リハビリテーション
リハビリテーション課協力の下、機能訓練のさらなる充実に努めた。
 - ・訪問リハビリテーション
訪問リハビリテーション事業を開始し、退院後のリハビリ継続による生活機能の維持につなげた。
- ④ 医師・看護師その他医療スタッフ育成のための学生教育実習及び臨床研修への協力事業
- ・沼津中央病院
実習病院の受託に関して、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師などについては、例年通り行うことができた。更に今年度は事務職の実習受け入れも行った。
 - ・鷹岡病院
初期研修医及び看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士・公認心理師の各実習生を受入れた。
 - ・沼津リハビリテーション病院
例年通り沼津医師会の一次救急輪当番医への協力を行った。また、大学や専門学校等の実習を積極的に受託し、セラピストや看護師、栄養士の養成に協力した。
- ⑤ 専門知識や技術向上のための研究協力事業
- ・沼津中央病院
精神科専門医制度専門研修プログラム研修施設（基幹施設）としての専攻医の育成については、1名専攻医を獲得し、協力機関で研修中。
 - ・鷹岡病院
KYT（危険予知訓練）及びRCA（根本原因分析）研修を企画・実施し、医療安全対策の強化を図っている。
 - ・沼津リハビリテーション病院
地域のセラピストや看護師を集めた研究会等を実施し技能向上に貢献した。
QC活動は例年通り実施したが、院内発表会は新型コロナウイルス感染症対策により自粛した。
- ⑥ 無料相談、助言事業
- ・院内無料精神保健相談
沼津中央病院、大手町クリニック、あたま中央クリニック、鷹岡病院、富士メンタルクリニックの5拠点におけるIV活動報告[2]-②の実績参照。
 - ・助言事業
静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして東部圏域自立支援協議会設置に貢献した。

⑦ 保健福祉普及のための啓発事業

- ・外部機関からの要請に対し、例年通り多種多様な協力を行うと共に、地域運営推進会議へ定期的に参加した。
- ・社会復帰事業部では、沼津市、富士市、伊豆の国市、長泉町からの委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。

2. [収益事業]

- ・特別の療養環境の提供に関する事業
より快適な療養環境を希望する利用者の要望に応え、適切な料金にて個室等を提供した。
- ・日常の支援に関する事業
入院患者の日常生活向上のため、生活に必要な衣類等の洗濯や生活物品等の調達を患者に代わって行う、あるいは委託可能な業者を紹介する等の事業を行った。
- ・不動産賃貸業
病院内に売店を設置し、業者に賃貸して運営を委託中。その他、静浦ホテル跡の土地及びヒルズ岡の宮、セジュール新大橋の賃貸、駐車場運営等を行っている。

3. [その他の事業]

- ・福利厚生事業
ウィスタリアン・ライフクラブ箱根への入会を継続し、令和元年度は、4組20名の利用実績があった。

III. 理事会・評議員会の開催

会議名	開催日	出席者数	主たる議題
第35回 理事会	R1.5.30	理事 8名 監事 2名	1. 平成30年度事業報告(案)について 2. 平成30年度決算報告(案)について 3. 鷹岡病院病棟改修工事について 4. 減価償却積立資産の取扱(案)について 5. 就業規則の一部改正(案)について 6. 定時評議員会の招集(案)について
第16回 評議員会	R1.6.18	評議員 6名 監事 2名	1. 平成30年度事業報告(案)について 2. 平成30年度決算報告(案)について
第36回 理事会	R1.12.19	理事 7名 監事 2名	1. 第1次補正予算(案)について 2. 就業規則及び経理規程改正について 3. 心理部門課業一覧について 報告事項 理事長・常務理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告について
第37回 理事会	R1.3.26	理事 7名 監事 2名	1. 令和2年度事業計画(案)について 2. 令和2年度予算(案)について 3. 経理規程改正(案)について 4. 契約規程改正(案)について 5. 準職員給与規程改正(案)について 6. 就業規則改正(案)について

IV. 活動報告

〔1〕 軽費診療

医療別		生保患者		減免	減免及び 生保患者	取 扱 延人数	割合%
		単独	併用				
入院	延人数	19,171	612	0	19,783	159,695	
外来	延人数	1,235	14,826	0	16,061	126,806	
計		20,406	15,438	0	35,844	286,501	12.5%

〔2〕 精神保健相談・健康相談活動

① 院外精神保健相談

病 院 別	回 数	内 容	担 当	主 催 又 は 後 援
沼 津 中 央 病 院	年 1 回	精神保健福祉総合相談	若 月 智 詞	静岡県東部健康福祉センター
	年 1 回	〃	鈴 木 和	〃
	年 1 回	〃	田 村 元	静岡県熱海健康福祉センター
	年 1 回	〃	若 月 智 詞	〃
	年 12 回	沼津市子育てママの相談事業	久 野 満 津 代	沼津市保健センター
鷹 岡 病 院	年 12 回	富士市職員メンタルヘルス相談	石 田 多 嘉 子	富士市役所
	年 1 回	精神保健福祉総合相談	高 木 啓	静岡県富士健康福祉センター
	年 1 回	静岡県職員健康相談	〃	静岡県経営管理部
	年 6 回	ストレス相談	久 保 伸 年	富士市保健部健康対策課
	年 6 回	〃	鈴 木 順 一	〃
社 会 復 帰 事 業 部	年 6 回	伊豆市サテライト相談会	池 田 友 美	伊豆市
	年 12 回	沼津市障害者専門相談会	内 藤 治 子	沼津市社会福祉協議会

② 院内無料精神保健相談・健康相談

(件)

病院別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
沼 津 中 央 病 院		82	99	136	75	92	65	53	45	54	34	31	47	813
大 手 町 クリニック		538	603	556	719	692	606	717	674	636	624	549	643	7557
あ た み 中 央 クリニック		110	81	84	73	64	73	85	69	88	92	98	85	1112
鷹 岡 病 院		65	58	88	92	61	66	63	59	57	50	46	40	745
富 士 メンタルクリニック		35	44	52	56	38	44	48	44	44	49	40	39	533

〔3〕 研究発表

① 学会・シンポジウム・研修会等への研究発表

沼津中央病院

1. 平田豊明, 杉山直也, 伊豫雅臣, 来住由樹: 日本精神科救急学会が目指すもの. 一般演題 (特別ポスター) 関連学会ならびにその活動紹介コーナー. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 20-22
2. 深見悟郎, 平田豊明, 来住由樹, 森川文淑, 長谷川花, 伊豫雅臣, 杉山直也: 精神科スーパー救急発足の背景. 一般演題 (特別ポスター) 関連団体ならびにその活動紹介コーナー. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 20-22
3. 長谷川花, 野田寿恵, 杉山直也: 精神科スーパー救急の治療成果～患者レジストリ～. 一般演題 (特別ポスター) 関連団体ならびにその活動紹介コーナー. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 20-22
4. 杉山直也: 静岡県東部地域における精神科専門医研修～沼津中央病院連携施設～一般演題 (特別ポスター) 専門医研修プログラム紹介コーナー. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 20-22
5. 長谷川花, 野田寿恵, 杉山直也, 精神科スーパー救急関連グループ: 精神科スーパー救急の治療成果～患者レジストリ～. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 20
6. 横島孝至: 自傷のおそれを伴って措置入院となった患者の実態調査. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 21
7. 横島孝至: 措置入院となった精神障害者の前向きコホート研究 (その 3): 措置入院時の精神症状・社会機能について. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 21
8. 横島孝至: 措置入院となった精神障害者の前向きコホート研究 (その 4): 措置解除時までの精神症状の改善度について. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 21
9. 塩澤拓亮, 藤井千代, 平田豊明, 兼行浩史, 野田寿恵, 杉山直也: 精神科救急及び急性期医療サービスにおける医療判断やプロセスの標準化と質の向上に関する研究. 第 27 回日本精神科救急学会学術総会, 2019. 10. 19
10. 市川容代, 池谷知佳: 児童精神科外来担当看護師の多職種・多機関連携における役割について－看護の視点で関わることの有益性について－. 第 60 回日本児童青年精神医学会総会, 2019. 12. 5-7
11. 杉山直也: 精神科救急及び急性期医療サービスにおける医療判断やプロセスの標準化と質の向上に関する研究. シンポジウム 7「精神科救急・急性期医療と地域包括ケア～厚生労働科学研究の成果～」. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 20
12. 石井美緒, 奥村泰之, 杉山直也: 統合失調症初回入院患者に対する SDM の実施可能性－救急入院料病棟における無作為化比較試験－. 委員会シンポジウム 35「精神科領域における SharedDecisionMaking (SDM) の実現可能性」. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 21
13. 杉山直也: 指定発言. シンポジウム 55「患者の違法薬物使用を知ったとき、精神科医はどうふるまうべきなのか?」. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 2019. 6. 21
14. 杉山直也: 精神科救急における自殺予防活動～日本精神科救急学会の理念と取り組み～. シンポジウム 5「救急医療と自殺予防」. 第 43 回日本自殺予防学会総会, 2019. 9. 8
15. 杉山直也: 我々の描く精神医療の将来ビジョン検証「急性期治療検討チーム」. シンポジウム 1「我々の描く精神医療の将来ビジョンのその後」(政策委員会). 第 8 回日本精神科医学会学術大会, 2019. 7. 4

16. 杉山直也：指定発言． シンポジウム 4「救急医療における身体科－精神科との連携 医療圏の特性に応じた最適解を探る～宮城県の事例を通じて～」． 第 27 回日本精神科救急学会学術総会，2019. 10. 19

鷹岡病院

1. 遠藤容子, 高木康宏：腎機能評価システム構築と薬剤投与量の確認． 第 8 回日本精神科医学会学術大会，2019. 7. 4
2. 中村正子：I MR 2019～いまから みんなで リカバリー～． リカバリー全国フォーラム 2019，2019. 9. 22
3. 中村正子：はじめよう！ I MR． 第 27 回日本精神障害者リハビリテーション学会，2019. 11. 24

沼津リハビリテーション病院

1. 菊池真菜：運動学習や下肢機能への認知的介入が立ち上がり動作を改善させた原発性側索硬化症の一例． 第 23 回静岡県理学療法士学会，2019. 6. 15～16
2. 西島勇：パーキンソン病患者の行為としての歩行を探求する一側方移動時に顕著な不安定さを呈した症例を通して－． 第 20 回認知神経リハビリテーション学会学術集会，2019. 10. 26～27
3. 西原初美：回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の退院支援に向けたアセスメント項目の検討． 第 50 回日本看護学会－慢性期看護－学術集会，2019. 11. 14～15

② 研究論文・総説・著書発表

沼津中央病院

1. Okumura Y, Sugiyama N, Noda T, Tachimori H：Psychiatric admissions and length of stay during fiscal years 2014 and 2015 in Japan: a retrospective cohort study using a nationwide claims database. *Journal of Epidemiology*. 29(8), 288-294, 2019
2. Kotaro Hattaa,*, Hana Hasegawab, Atsushi Imaic, Yasuhiko Sudod, Fumiyoshi Morikawae, Shigemasa Katayamaf, Haruo Watanabeg, Takuya Ishizukah, Mitsuru Nakamurai, Fuminari Misawaj, Kiyoshi Fujitak, Shigeru Ozakil, Kentaro Umedac, Hiroyuki Nakamuram, Yutaka Sawag, Naoya Sugiyamab, for the JAST study group: Real-world effectiveness of antipsychotic monotherapy and polytherapy in 1543 patients with acute-phase schizophrenia. *Asian Journal of Psychiatry*. 40, 82-87, 2019
3. 杉山直也：精神科救急． 今日の治療指針 2019 年版 私はこう治療している
4. 杉山直也：措置入院者の退院後支援等． 新たな精神科保険診療のベストプラクティス. *臨床精神医学*, 48(2), 181-191, 2019
5. 長谷川花, 杉山直也：精神科救急における高齢者医療はどうあるべきか． 特集：高齢者の精神科救急・急性期医療. *精神医学*, 61(9), 1011-1018, 2019
6. 長谷川花, 杉山直也：精神科救急における認知症の入院治療の課題と方向性～患者レジストリを用いた分析～. *精神科救急*, 22:46-50, 2019

1. 概要

沼津中央病院グループでは、平成 24 年度から第 3 次中長期計画(平成 25 年～30 年)を通じ、法人の基本理念である「愛・信頼・貢献」を基調とし、職員の誰もがすぐに想起できる身近でシンプルな運営方針及び重点目標を掲げ、日々の業務に取り組んできた。平成 31 年からはこの考えを刷新し、同時に策定した第 4 次中長期計画を基に新鮮で鮮明、印象深く時代に見合う運営方針/重点目標を策定した。5 か年計画の 2 年が経過した時期で、現在も目標に向けた組織的な取り組みを継続しているが、特に人材の育成と対応力の強化、経費削減、精神科救急医療体制整備事業の充実、退院支援の強化などに精励した。

運営方針

「地域のトップランナーとして、自立促進のケア理念に立脚し、包括的で良質な医療サービスを提供するとともに、時代の要請に応えるべく、優良な医療・保健・福祉人材を育成し、機能的で美しく、魅力的で力強くかつ謙虚で親身な組織づくりを追求する。」

重点目標

1. 人材の育成と対応力の強化

- (1) 活気があり、雰囲気良く、業務経験機会があり、指導体制が整い、労働条件が良好な職場を実現し、好人材を引き寄せる魅力ある病院を目指す。
- (2) 働き方改革の中で、個々の働き手が健全で、かつ公私ともに自己実現できるような労働環境を実現する。
- (3) 困難な業務課題に対しても適切で、かつ個々人が低負担で無理なく対応できるよう組織力を強化し、常に専門的な向上心を高める意欲を喚起できるような職場環境を実現する。
- (4) 職域に応じて、標準化されたスキルを体得し、自ら専門性を高め、その特性長所を活かすとともに、特性課題の克服にもつながるよう、効果的な人材育成のための院内教育システムの構築を目指す。

2. 医療サービス向上

- (1) 地域生活を見据えたケア提供をめざし、切れ目のない包括的なサービス体制を構築する。
- (2) 地域生活の中で生じる急性の危機状況に即応できるよう、良質で高水準の救急医療サービスを継続的に提供する。
- (3) あくまで自立促進をベースとして、当事者の権利と可能性を追求した治療理念を基本としたケアを提供する。
- (4) 常に探求心をもってものごとに取り組み、試行や検証等の専門研究的視点を重視し、より確かなエビデンスに基づいたサービスの提供を目指す。

3. 地域に責任を持つ

- (1) 静岡県東部の精神科医療におけるトップランナーの自覚を保ち、気概と責任感を持って当事者サービスに従事する。
- (2) 地域社会の様々な分野と連携し、広い視野を持って地域貢献することを意識する。

4. 時代に対応できる経営戦略

- (1) 少子高齢化等、時代の変化に伴う社会構造や制度・体制の変革に対応できるよう、効率的な病院経営を実現する。
- (2) 業務を支えている建造物、インフラストラクチャー等、病院資源に対する意識を向上させ、常に感謝の念をもって取り組む。
- (3) 目標達成のための必要業務数値を各人が明確に意識し、ともに協力して無理なく達成できるよう準備し、組織によって取り組む。

2. 沼津中央病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：杉山直也
- ② 病床数：270床
- ③ 所在地：沼津市中瀬町24番1号 代表：055-931-4100
- ④ 診療科：精神科・心療内科
- ⑤ 主な届け出受理等：精神科救急入院料Ⅰ、精神科療養病棟入院料、精神病棟入院基本料15:1、看護補助加算1、精神科ショートケア（大規模）、精神科デイケア（大規模）、精神科ナイトケア、精神科デイナイトケア、精神科作業療法、薬剤管理指導料、精神科訪問看護、静岡県東部精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、日本医療機能評価機構認定（機能種別版評価項目 3rdG:Ver1.0）

(2) 医療活動

- ① 法人内外連携による地域包括ケアサービス
 - ・ 精神科救急医療体制整備事業における常時対応施設と休日夜間電話相談（指定）は、例年通り十分に行った。
 - ・ 長期入院者が地域で生活できるための基盤整備として、住居型施設のセジュール新大橋の稼働、法人内グループホームも有効活用している。
 - ・ 地方公共団体による退院支援への対応と協力要請については、計画に則った協力要請に応じることができている。
 - ・ 法人としてピアサポーターの雇用を開始。治療の一環として、ピアサポーターが定期的に病棟に訪問し活動している。
 - ・ 外来の再来目標数値には届かなかった。
 - ・ 訪問看護については十分充実。通院困難患者に対し、医師と精神保健福祉士による複数名での訪問診療を実施した。

② 多様性への対応

- ・ 児童思春期精神科診療（浜松医科大学、横浜市立大学との連携）は、例年通り順調に推移した。定着を目指す。
- ・ 圏域内総合診療（圏域内地域支援病院等との診療連携 医療連携室機能の発揮）については、問題なく連携ができてはいるが、今後さらに充実させる必要がある。
- ・ 治療プログラムの「ぬま〜ぷ、リワーク、摂食障害、心理教育、 協働意思決定（SDM: Shared Decision Making）、フリートークの会（ピア活動）、栄養指導などについては、概ね良好に取り組むことができた。
- ・ クロザリルについては、新規導入を始めてとして積極的に活用した。
- ・ 修正型電気痙攣療法（m-ECT）については、週 2 日間を十分に活用し成果を上げている。
- ・ 隔離・身体拘束最小化に向けた取り組みとして、補助看護者への教育制度を構築し取り組んでいるが、成果は低調であった。
- ・ 精神療法さらなる充実を目指していきたい。
- ・ 薬剤管理指導については充実した活動ができた。
- ・ 栄養指導については、外来患者及び入院患者共に例年以上の取り組みができた。
- ・ 準急性期（3～12 か月）アセスメント方法の確立についての進展はなく、次年度への継続的課題である。
- ・ LEAP の実践は、LAI 使用に制限があり実践できなかった。次年度の継続的課題である。
- ・ 急性期パスの導入については活用に至っていないため、次年度への継続的課題である。
- ・ 災害派遣精神医療チーム（DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team）と災害拠点精神科病院への申請については計画的に準備をはじめている。
- ・ 高齢化をみすえた身体管理技術の維持・向上に向けた取り組みはできた。
- ・ デイケア、OT、心理による発達障害プログラム導入のための検討までとなった。多様化に向け、総合的に検討する必要がある。

③ 確かなエビデンスに基づく業務実践

- ・ 厚生労働科学研究の各種の調査依頼に協力した。
- ・ 職域ごと（医師、薬剤師、看護師、精神保健福祉士、医事等）で外部での実践報告などに取り組んだが、職種によっては次年度の報告会参加を検討していきたい。
- ・ 薬剤使用（処方）状況の把握と評価は随時情報共有をしている。ただし依然課題であり、適正処方を徹底する必要がある。
- ・ レジストリの活用に関する外部発表を次年度も目指していく。

④ 人材育成と強化、活用

- ・ クライシス対応スキル（ディエスカレーション、自殺ハイリスク）の標準化については、履修目標数値には届かなかったものの、目標数値達成のための方法についての検討を随時している。

- ・ 医療法、診療報酬に基づく義務研修（リスク、感染、行動制限最小化等）の開催は例年通り滞りなく行われた。参加率については開催毎に評価をし、前年度以上の参加率を達成した。
- ・ 専門上位資格取得については、1名が専門医を、2名が指定医を取得した。
- ・ 精神科専門医制度専門研修プログラム研修施設（基幹施設）としての専攻医の育成については、1名専攻医を獲得し、協力機関で研修中。
- ・ 研修実態の把握及び外部研修の適正な評価は、内容確認に留まり評価にまでは至らなかった。
- ・ ボランティアについては、例年通り受け入れ活動を行った。
- ・ 高パフォーマンスを実践し得る専門的人材を育成するため、OJTの見直しを実践しているが部署によるばらつきが出ている。

(3) 施設設備の整備計画

① 既存建物設備の維持

- ・ 病棟など計画的な修繕を実施しているが、多くは問題発生時対応となっている。
- ・ 年度内に環境保全職員3名が退職となり、自立目標については保留せざるを得ない。

② 人・環境にやさしい空間の創造

- ・ 光庭（中庭）の整備については、次年度の継続課題である。
- ・ 待合・ラウンジ周りの展示物適正管理部門として、事務課主導による環境整備接遇委員会の設置を計画している。
- ・ 節電のみならず、物品購入等に対してのコスト意識が高まり、経費節約に繋げることができた。

(4) 地域貢献活動

① 公的機関への協力

- ・ 国、県、市町村、職能団体、研究機関、学術団体等からの要請については、例年通り行うことができた。
- ・ 例年通り、大学、看護学校等への講師派遣を実践している。
- ・ 実習病院の受託については、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師などについては、例年通り行うことができた。更に今年度は事務職の実習受け入れも行った。
- ・ 他分野（企業等）との連携と貢献については、前年度に検討していた（株）オカムラの家具を病棟食堂に配置した。

(5) その他の活動

① 情報管理の推進

- ・ 医事・栄養管理システムについて問題なく更新した。
- ・ 電子カルテシステムについては問題なく更新した。バックアップシステムについては、内部及び外部保存を構築した。
- ・ 人工知能（AI）活用については、次年度も継続して模索していく。

② 広報活動

ホームページの適時更新及び活用については、法人本部管理であるため簡便性に問題がある。

③ 全面禁煙

2019年12月から敷地内全面禁煙を実施している。

3. 大手町クリニック

(1) 基本情報

① 管理者：志澤 容一郎

② 所在地：沼津市大手町3丁目1番2 エイブル・コア6F 代表：055-962-7371

③ 診療科：精神科・心療内科

④ 主な届け出受理事等：精神科デイケア(小規模) 精神科ショートケア(小規模)

(2) 医療活動

円滑な医療ケアの提供、安心して医療を受けられる環境づくり、それらの体制の整備を図った。

(3) 施設設備の整備計画

診療環境の改善に努めているが、次年度も継続して改善に努めていく。

(4) 地域貢献活動

地域の精神保健活動及び地方公共団体による退院支援へも積極的に協力した。

4. あたみ中央クリニック

(1) 基本情報

① 管理者：野田 寿恵

② 所在地：熱海市田原本町9-1 熱海第一ビル2F 代表：0557-83-7707

③ 診療科：精神科・心療内科

(2) 医療・地域貢献活動

地域ニーズを担い、スマートな医療体制を目指し、サポートセンターいとうと連携して、患者の地域福祉サービスの導入を図った。長谷川式認知症スケールの看護師による実施、うつ性自己評価尺度の実施で患者の病態の理解をより深め、採血検査を積極的に行い治療の安全性を高めた。

また勉強会・研修会は計画を立て実施し、地域の精神保健活動にも積極的に協力した。地域施設見学については未実施であるため、次年度に再度検討していく。

5. 訪問看護ステーションふじみ

(1) 基本情報

① 管理者：飯塚 香織

② 所在地：沼津市中瀬町24番1号 代表：055-931-5223

(2) 医療活動

関係機関との他職種協働と連携強化を図り、自立を促しその人らしさを支える精神科訪問看護を提供し、利用者数の増加に努めた。職員に対しては、研修会・事例検討会で職員のスキルアップを図った。

また、地域貢献活動としては、ケース会議や退院カンファレンスへの参加などで情報提供を図り地域のケアチームの一員としてその役割を十分に果たした。

入退院及び在院患者数

(定床：270床)

	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	期中1日当
沼津中央病院	245	560	568	237	90,759 (90,191)	248.0

延べ()内は、保健所報告数(退院当日を含まない)

外来取扱患者数

	外 来		デイ・ケア 作業療法(外来のみ)		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院	16,688	57.0	10,785	44.8	27,473	101.7
大手町クリニック	19,848	81.7	4,990	23.5	24,838	105.1
あたま中央クリニック	8,193	34.9			8,286	34.9

	訪問看護		作業療法(再掲)	
	期中延	1日当	期中延	1日当
沼津中央病院			18,482	76.4
訪問看護ステーションふじみ	7,080	24.2		

[鷹岡病院グループ]

1. 概要

令和元年度は、医療を通じて社会に貢献できるよう重点項目を「将来を見据えた病棟再編成」「利用者の視点に立った良質で安全な医療の提供」「地域の医療機関・社会資源との更なる連携」「人材の育成・確保」「災害対策の推進」と定め、取組んだ。

2. 鷹岡病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：高木 啓
- ② 病床数：151 床
- ③ 所在地：富士市天間 1585 番地 代表：0545-71-3370
- ④ 診療科：精神科・心療内科
- ⑤ 主な届出受理等：精神科救急入院料 1、精神療養病棟入院料、精神科デイ・ケア（大規模）、精神科作業療法、精神科訪問看護、県富士圏域精神科救急基幹病院、精神科応急入院指定病院、認知症疾患医療センター（地域型）、日本医療機能評価機構認定（3rdG:Ver. 1.1 精神科病院）、ISO9001 認証取得

(2) 医療活動

- ① 9 月末に病棟改修工事が完了し、10 月より新病棟体制(133 床)の運用を開始した。精神科救急病棟（38 床）は 2 フロアで一病棟としたことにより個室が増加し、救急患者の入院受入がスムーズになった。精神療養病棟（46 床と 49 床）も改修後は隔離室が増加し、重度慢性患者の対応が可能となった。しかし、看護師不足の影響で許可病床数 151 床に対し、届出病床数は 133 床となっており、本格運用はまだできていない。
- ② 精神科救急事業は例年通り迅速に対応が図られている。
- ③ 認知症疾患医療センターは、専門医療相談・鑑別診断及び初期対応・研修会の開催を通じての情報発信を行った。また、富士市認知症初期集中支援推進事業を受託し、構成される専門職チームによる訪問活動等を実施した。
- ④ KYT（危険予知訓練）及び R C A（根本原因分析）研修の企画・実施し、医療安全対策の強化を図っている。
- ⑤ 富士市・富士宮市の救急医療センターとの連携を図っている。
- ⑥ 県地域包括ケアシステム構築推進事業は昨年度で受託終了となったが、引き続き外出・外泊体験ができる環境を整えている他、外部環境との接触を積極的に行い、多職種で退院支援を推進している。
- ⑦ うつ・自殺対策の取組みとして、紹介システムの再周知をしている。自殺未遂者支援ネットワークの構築を進めている。
- ⑧ クリニカルパスについては運用に留まり、効果的とする課題は残っている。

- (3) 施設設備の整備状況
 - ① 病棟改修工事を行い、精神科救急病棟が2フロアを螺旋階段で繋ぎ一病棟となり、休床となっていた病棟が精神療養病棟として稼働を再開した。改修に伴い病床数は184床から151床へ減床となった。
 - ② ナースコール設備の入替を行った。
 - ③ Windows10へ対応するためパソコンの入替を行った。
 - ④ アルファ米と保存水の更新を行った。
- (4) 地域貢献活動
 - ① 公的機関、諸団体の精神保健福祉分野での協力を行った。
 - ② 初期研修医及び看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士・公認心理師の各実習生を受入れた。
 - ③ 公的機関や地域企業のメンタルヘルス分野での協力を行った。
 - ④ 「第30回天間ふれあいの日」の開催並びに天間地区文化祭、天間梅まつり等の福祉推進事業へ参加した。
 - ⑤ 「グループホームふじみ」や「サポートセンターほっと」と連携・協力し、富士地区の法人活動を推進している。
 - ⑥ 富士市医師会や職能団体事業へは、人的派遣など協力している。
 - ⑦ 富士市地域防災計画にある救護病院（特殊病院）の役割を担っている。
- (5) その他の活動
 - ① 適切な品質目標の設定と達成度の評価を実施し、ISO9001の効果的な運用が図られている。
 - ② 「事業継続マニュアル」を策定し、実行可能となるよう修正を重ねている。安否コール（災害安否確認システム）による安否確認訓練を実施しており、更なる情報提供の方法を検討している。
 - ③ 職務満足度向上のため、日本医療機能評価機構による「職員やりがい度活用支援」を利用した職務意識調査を実施、結果の集計・分析・報告を行い、勤務環境の改善に取り組んでいる。
 - ④ 病院事業に関連した研修や医療安全管理・行動制限最小化・院内感染防止等の研修を全職員対象に実施した。外部研修等へは積極的に参加し、出張報告会でフィードバックしている。
 - ⑤ 接遇向上のために新人研修、出張報告、医療安全管理研修で接遇に関連したテーマを取り上げて開催した。また、「倫理的問題が潜んでいる場面」のポスター（4種類）を掲示し、現状と課題を把握した。
 - ⑥ 院内研修会での実践による情報発信できる人材の育成は、進行中。

3. 富士メンタルクリニック

(1) 基本情報

- ① 管理者：石田 孜郎
- ② 所在地：富士市本町1番2-201号 代表：0545-64-7655

- ③ 診療科：精神科・心療内科
- ④ 主な届出受理等：精神科デイ・ケア（小規模）、精神科ショート・ケア（小規模）、精神科訪問看護

(2) 医療活動

- ① 初診枠（第2第4月・木）の見直しを担当医師と適宜行い、再診患者の診療が円滑に進むように配慮した。
- ② 富士市主催の公共施設見学を計画通り実施した。目標とした7名以上の参加を達成した。
- ③ 外部・内部での研修に参加することでの訪問者の資質の向上を目指した。その成果の指標にもなる患者満足度が昨年度以上に向上した。訪問利用者全員から『大変満足』『満足』の回答があった。
- ④ 心理検査（特に初診時におけるアセスメント検査）をスムーズに診療に役立てることが出来るシステムを構築し、検査件数も増加した。また、知能検査以外で発達障害に対して実施できる検査として CARRS、ADI-S 等の発達障害診断補助検査を導入した。

(3) その他の活動

- ① クリニック業務に関わる法律の理解を深めるために、ISO アドバイザーによる当院の業務に関する法律の講義を実施した。
- ② カルテ整理を行い電子化に備える準備に取り掛かったが、その先の検討・準備は進んでいない。

入退院及び在院患者数

(定床：151床)

	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	期中1日当
鷹岡病院	97	237	247	87	35,868 (35,621)	98.0

延べ数()内は、保健所報告数(退院当日を含まない)

外来取扱患者数

	外 来		デイ・ケア他		一般外来計	
	期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹岡病院	23,965	81.8	6,723	27.7	30,688	104.7
富士メンタルクリニック	13,483	46.0	3,243	13.3	16,726	57.1

	訪問看護		作業療法(再掲)	
	期中延	1日当	期中延	1日当
鷹岡病院	748	2.6	5,157	21.4
富士メンタルクリニック	135	0.5		

延べ数は、同日再診を含まない。

[沼津リハビリテーション病院グループ]

1. 概要

令和元年度、常に求められる医療機関を目指し、回復期におけるリハビリテーション医療及び神経難病などに対するリハビリテーションと医療ケアを基軸としたサービス提供を継続した。

回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中を中心とする神経疾患、大腿骨近位部骨折を中心とする外傷を主たる対象としつつ、幅広い疾患や合併症にも対応するよう努め、急性期病院の後方支援病院としての役割を担った。

療養病棟では、指定難病である神経疾患を中心として合併症にも対応しつつ、在宅ケア例に対するリハビリテーション介入を伴う支援に努めた。地域在宅困難例、回復期非対応例にも可能な限り対応しながら、在宅復帰への支援に積極的に取り組んだ。

重点目標に掲げた病床稼働率は平均 85.2%にとどまったが、リハビリテーションの実績指数と在宅復帰率は入院料算定に必要な届出基準を維持することができた。必要な職員の確保については、依然困難な状況であるが、育成については外部研修等を積極的に活用し、技能向上に努めた。

年度当初より 訪問リハビリテーション事業 を新たに開始し、退院後の生活基盤の安定や外出機会の増大、活動参加につなげることができた。

2. 沼津リハビリテーション病院

(1) 基本情報

- ① 管理者：長友 秀樹
- ② 病床数：106 床
- ③ 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-1911
- ④ 診療科：リハビリテーション科・内科・神経内科・消化器内科
- ⑤ 主な届出受理等：回復期リハビリテーション病棟入院料
療養病棟入院基本料
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション

(2) 医療活動

① 回復期リハ病棟の機能維持・向上

病床稼働率は目標に届かなかったものの、FIM の改善や在宅復帰率の向上については概ね達成することができた。認知症対応力の向上については、勉強会などを開催し一定の成果は得られた。しかしながら、病室環境や夜勤者数などの制約により受入可能な患者数には限界がある。急性期病院からの受入れについては、受入後の対応に苦慮することがないよう事前の十分な情報を収集できるよう円滑な対応に努めている。後方連携については、退院後の訪問スタッフやケアマネジャーとも連携し円滑な退院支援に努めた。

② 医療療養病棟の機能改善

医療区分 2 及び 3 の患者受入割合は維持できたが、患者数の目標には至らなかった。回

復期非対応患者の受入については積極的に取り組んだが、必ずしも家族の意向に合致するものとは言いきれず、期待通りの結果に至らない場合もあった。

(3) 施設設備の整備

病棟エアコン、マットレス、医事システムの更新を行った。省エネ対策の推進では院内照明のLED化を計画したが、補助金不採択となったことにより見送ることとした。また、中庭を含む外構の整備については、緑地面積の課題が判明し対応検討中である。職員駐車場整備については、次年度の実施に向けて計画を進めた。

(4) 地域貢献活動

例年通り沼津医師会の一次救急当番医への協力をを行った。また、大学や専門学校等の実習を積極的に受託し、セラピストや看護師、栄養士の養成に協力した。さらに、地域のセラピストや看護師を集めた研究会等を実施し技能向上に貢献した。QC活動は例年通り実施したが、院内発表会は新型コロナウイルス感染症対策により自粛した。

(5) その他の活動

人材確保については常に課題として取り組んでいるが、十分な結果は得られていない。特に夜勤者の確保などは急務となっている。今年度から実施された働き方改革については、法人として当座の対応は施したが、残る課題も多く、さらなる対応が求められている。ICTの活用を含む院内情報システムの検討については、医事システムの更新の際、将来的な電子カルテ導入までを見据えた中で検討を行った。災害対策では、沼津市の指定救護病院として機能を発揮できるよう次年度の計画に盛り込んだ。

3. 訪問看護ステーションうしづせ

(1) 基本情報

- ① 管理者：松川 香織
- ② 所在地：沼津市上香貫蔓陀ヶ原 2510-22 代表：055-931-3900
- ③ 主な届出受理等：24 時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア療養費

(2) 医療活動

年度初めは職員の入れ替わりがあり訪問件数をセーブせざるを得なかったが、その後においてもリハビリ職員の減員もあり、利用者数の増加には至らなかった。一方、医療的ケア児へのサービス提供を実施し、幅広い年齢層に対応した。24 時間対応体制整備のため、対応職員を4名から5名に増員した。

(3) 施設設備の整備

更衣室エアコンの更新を行った。

(4) 地域貢献活動

看護学校等の実習を受入れ、訪問看護の周知に努めた。

入退院及び在院患者数

(定床：106床)

入院	期首在院	期中入院	期中退院	期末在院	期中延	1日当 (人/日)
医療	89	245	244	90	33,068	90.3

外来取扱患者数

外 来		通所リハビリ		訪問リハビリ	
期中延	1日当	期中延	1日当	期中延	1日当(人/日)
9,988	41.1	5,414	17.6	72	1.1

訪問看護ステーションうしぶせ取扱患者数

	訪問看護	
	期中延	1日当(人/日)
医 療	1,727	5.6
介 護	3,902	12.5
計	5,629	18.1

VI 福祉活動

[本部・社会復帰事業部]

1. 概要

平成 31 年度・令和元年度は、（１）ガバナンス（企業統治）の充実・強化、（２）堅実経営の実践、（３）内部管理体制の充実、（４）採用（定期・中途）の効果的な実践に向けた組織化 の 4 項目を重点目標と掲げ、環境の変化に対応できるよう意識変革を図ってきた。

特に、政府主導の働き方改革へ呼応すべく労働時間の把握のための方策を定め、令和 2 年 4 月より施行される同一労働同一賃金への対応に関しては、正職員と他の職員の間不合理な格差是正のため就業規則・規程の改正を行った。

社会復帰事業部においては、相談支援事業を行っている「サポートセンターなかせ」でピアスタッフを 2 名採用し沼津中央病院や他の社会復帰施設で活動を行い成果が上がっている。しかしながら、地域活動支援センター事業では地域に就労系事業所が増えたことで利用者数が増えず、また、共同生活援助事業でも利用者の高齢化や身体疾患等が原因で入居者増にならない等の課題が残ったが、就労支援事業では時代や環境の変化に順応する取り組みを始めしており、前向きな展開が期待できる。

2. 本部事務局

(1) ガバナンス（企業統治）の充実・強化

① 理事会・評議員会・経営会議の適切な運営と会議資料の充実

理事会・評議員会・経営会議は定期的実施され、業務執行上における重要事項について機動的・多面的に審議が行われ、その議事録等については適切に作成・保存されている。

② 環境の変化に応じた就業規則・規程の改正

- ・ 働き方改革対策として、産業医制度の強化に向けた規程の改正を行い、労働時間把握のための方策を定めた。
- ・ 令和 2 年 4 月より施行される同一労働同一賃金への対応に関しては、正職員と他の職員の間不合理な格差是正のため就業規則・規程の改正を行った。

(2) 堅実経営の実践

求人状況が逼迫する中、一部の病院では看護師不足のために病床の縮小を余儀なくされた。打開策として、現有の人員での効率的な運営を目指し病棟の改修を行い本部としても側面支援を行ったが、効果が表れるのは令和 3 年度の見込みである。

(3) 内部管理体制の充実

令和元年 8 月に 3 病院、令和 2 年 2 月に就労支援事業所 1 箇所の内部監査を実施した。病院の内部監査では、決裁後の 20 万円以上から 1,000 万円未満の取引に関して契約者が管理者でない不合理性が判明し、契約者を管理者とすべく規程の改正を行った。

(4) 採用（定期・中途）の効果的な実践に向けた組織化

採用の効率化を目的として本部での採用の一本化を模索してきたが、支部毎に固有の事情があり、本部での不完全な事情把握の下での採用は困難であることが判明し、実践に至らなかった。

(5) その他 (セジュール新大橋収益事業の早期黒字化)

10室のうち6室が稼働しており、収支トントンの状況である。

3. 社会復帰事業活動

(1) 相談支援事業

各市町からの委託相談、指定特定・一般相談支援事業をサポートセンターなかせ・同三島分室、ゆめワーク、ほっと、いとうの4事業所で実施。

特定相談では計画依頼も増加を続けていること、今年度よりモニタリング実施期間の見直しがあり、モニタリング回数が増加したことから、すべての利用希望者に対応ができない状態にあった。利用者に対しては、本人の意向を尊重し、寄り添った支援が行えるようにしてきた。各事業所において日々の支援については振り返りの機会をもち、法人内の相談支援事業所でも隔月で連絡会を行い、スキルアップに努めた。

また、今年度はサポートセンターなかせでピアスタッフを2名雇用。沼津中央病院でのフリートークの会やサポートセンターいとう、サポートセンターゆめワークの地活などにも参加している。

(2) 地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク、サポートセンターいとうの2箇所を実施。両センターともに利用者が安心できる場所を提供できるよう心掛け、創作活動、軽スポーツなどの趣味的活動や、料理教室、買い物ツアーなどの生活支援を組み合わせるなど工夫しながら取り組んできた。また、地域行事への参加やピア活動への協力、ボランティアの受け入れなど、地域に開かれたセンター運営を行った。地域に就労系事業所が増えたことも影響してか利用者数は増えず、また利用者の高齢化も顕著である。

(3) 共同生活援助事業

空き室の情報を病院関係者や法人内事業所と共有した。結果問い合わせも多かったが、利用目的の確認や金銭・服薬方法をめぐり互いの認識をすり合わせる事に時間を要した。待機者の中には10年前後の入院生活を送っている方も多く、見学・日中体験や宿泊体験へと進む過程において職員と時間をかけて関係構築する必要のあるケースが多くなっている。8月にはサテライトを開設したが、インフルエンザ流行の影響もあり今年2月の入居となった。サテライトを経て単身生活にチャレンジ出来る環境づくりとして、利用の効率化・好循環を図る必要がある。高齢化や身体疾患に基づく他居住施設への移行についての課題は今後も引き続き検討が必要である。

(4) 就労支援事業

東部圏域(沼津・三島・伊豆の国)3ヵ所で就労継続支援B型事業を実施。昨今、障害者雇用への支援施策が強化され、各地域にも様々な支援事業所が出来ており、その中で選ばれる事業所となるよう、各作業内容の充実や工賃向上の他、地域のニーズ・利用者のニーズをきちんと把握し、家族・関係機関とも連携した丁寧な個別支援が求められている。今年度は上記状況も踏まえ、3つの事業所で情報共有と各種検討が出来るよう月1回の連絡会議開催を始めた。会議内で利用者への食事提供について検討し、来年度から2つの事業所で昼食の提供開始が決定。現在、個別支援計画の書式検討が進められている。今後も利用者の確保・施

設外就労の充実・一般就労への支援強化・利用者の家族と本人の高齢化等様々な課題について前向きに取り組み、利用者選ばれ、安心して通所出来る環境づくりに努めていく。

(5) 地域貢献活動

- ① 静岡県から委託を受け、東部圏域自立支援協議会設置及び圏域相談支援のための圏域スーパーバイザー設置事業を行い、圏域スーパーバイザーとして東部圏域自立支援協議会設置に貢献した。
- ② 沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、伊東熱海地区、富士市地域自立支援協議会の運営に協力した。
- ③ 沼津市、富士市、伊豆の国市、長泉町から委託を受け、障害支援区分認定調査を行い協力した。
- ④ 伊東市、熱海市、伊豆市・伊豆の国市、清水町、裾野市の障害支援区分判定審査会委員として地域に貢献した。
- ⑤ 静岡県精神保健福祉士協会から委託を受け、静岡県精神障害者雇用推進アドバイザーとして活動した。

相談・訪問件数（延件数）

（平成31年4月～令和2年3月）

	来所	電話	訪問	その他	合計
ゆめワーク	1,086	1,433	800	2,840	6,159
なかせ	412	2,002	1,145	3,925	7,484
いとう	1,507	3,963	1,245	3,762	10,477
ほっと	46	1,278	365	1,713	3,402
合計	3,051	8,676	3,555	12,240	27,522

地域活動支援利用状況（延人数）

（平成31年4月～令和2年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ゆめワーク	249	224	197	220	184	196	199	157	169	158	128	196	2,277
いとう	230	193	230	260	188	200	187	211	203	187	187	197	2,473
合計	479	417	427	480	372	396	386	368	372	345	315	393	4,750

グループホーム利用状況

（令和2年3月31日現在）

施設名	定員	出身市町											合計
		富士	沼津	伊東	富士宮	裾野	三島	御殿場	静岡	熱海	伊豆	湯河原	
ふじみ	11	4	2		1								7
ふじみⅡ	5	1											1
カーサ岡の宮	10		3				1	1				1	6
はまゆう	9		3	1		2	2			1			9

グループホームコーポ狩野利用状況

（平成31年4月～令和2年3月）

施設名	定員	期首入所者数	新規入所者数	退所者数	期末入所者数
コーポ狩野	20	17	1	2	16

就労支援事業所かのん利用状況

(平成31年4月～令和2年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	54	55	55	54	54	54	54	53	52	52	52	52	
開所日数	24	23	24	25	22	22	23	23	23	22	22	24	277
実人数	49	51	51	50	51	51	54	51	50	50	50	50	
延人数	494	507	553	566	476	474	506	490	502	449	422	509	5,948
1日平均	20.6	22.0	23.0	22.6	21.6	21.5	22.0	21.3	21.8	20.4	19.2	21.2	21.5

就労支援事業所ワークショップまごころ利用状況

(平成31年4月～令和2年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	37	38	38	38	37	37	38	39	38	38	39	39	
開所日数	25	24	25	26	23	23	25	26	23	22	23	25	290
実人数	31	32	32	33	31	30	31	31	31	31	29	26	
延人数	418	416	431	449	374	374	390	396	395	366	343	367	4719
1日平均	16.7	17.3	17.2	17.3	16.3	16.3	15.6	15.2	17.2	16.6	14.9	14.7	16.3

就労支援事業所田方・ゆめワーク利用状況

(平成31年4月～令和2年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月末登録者	29	28	29	27	25	25	26	27	26	26	25	25	
開所日数	20	21	21	22	20	19	22	22	21	20	18	21	247
実人数	25	24	27	26	22	21	24	26	25	22	22	21	
延人数	301	300	330	333	222	236	285	318	304	276	244	304	3,453
1日平均	15.1	14.3	15.7	15.1	11.1	12.4	13.0	14.5	14.5	13.8	13.6	14.5	14.0

Ⅶ. 地域貢献活動

〔1〕 講演開催状況

沼津中央病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
H31. 4. 13	ヒルトン大阪 4F「金の間」	国家的規模の臨床データからわかること～Real World Data の活用と意義～	杉山直也	ヤンセンファーマ株式会社
R1. 5. 11	ヤンセンファーマ株式会社 本社3階マルチパーパス	〃	杉山直也	〃
5. 23	マリエールオークパイン金沢	〃	杉山直也	〃
5. 28	沼津市第5地区センター	精神疾患の基礎知識	澤野文彦	静岡県東部保健福祉課
6. 25	静岡県東部総合庁舎別館 2階 婦人センター集会室	退院後生活環境相談員の役割と活動について	澤野文彦	〃
7. 3	静岡県男女共同参画センター 「あざれあ」	地方公共団体による精神障害者の退院後支援	澤野文彦	静岡県障害福祉課
7. 24	ホテルセンチュリー静岡 4階 「クリスタルルーム」	国家的規模の臨床データからわかること～Real World Data の活用と意義～	杉山直也	ヤンセンファーマ株式会社
9. 28	TKP市ヶ谷カンファレンスセンター6階ホール 6B	精神科救急病棟の問題点～これから目指すべき方向～	杉山直也	これからの精神科病棟を考える会
9. 29	独立行政法人国立病院機構静岡医療センター	「緩和ケアについて」	伊藤慶	独立行政法人国立病院機構静岡医療センター
10. 25	レンブラントホテル厚木 2階 「暁」	精神科救急における最近の話題～診療技術を中心に～	杉山直也	Meiji Seika ファルマ株式会社
10. 26	清水町福祉センター2階多目的ホール	うつを理解する～医療の現場からお伝えしたい最新知識～	杉山直也	清水町役場健康福祉課障害福祉係
10. 27	札幌プリンスホテル国際館バミール 6F	国家的規模臨床データ～Real World Data～から考える統合失調症薬物治療選択	杉山直也	大塚製薬株式会社
10. 29	ふじのくに千本松フォーラム ブラサヴェルデ 408 会議室	「退院後の治療につなぐためにどうするか？」	長谷川花	大塚製薬株式会社
11. 2	静岡県男女共同参画センター 「あざれあ」 501 会議室	自殺未遂者ケア研修会について	杉山直也	静岡県精神科救急医療研究会 大塚製薬株式会社 吉富製薬株式会社 ヤンセンファーマ株式会社
12. 7	六本木アカデミーヒルズタワーホール	精神科救急医療の方向性～薬物選択の根拠となるエビデンスは何か～	杉山直也	大塚製薬株式会社
R2. 1. 16	みしまプラザホテル「ローズマリールーム」	「精神科救急病棟でのうつ病治療～レジストリデータをまじえて～」	長谷川花	大日本住友製薬株式会社 ファイザー株式会社
1. 31	沼津リバーサイドホテル	「レキサルティの使用経験からの考察」	長谷川花	大塚製薬株式会社
2. 7	大塚製薬株式会社徳島研究所	国家的規模の臨床データ～Real World Evidence～から考える統合失調症薬物治療選択	杉山直也	大塚製薬株式会社医薬品事業部

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R1. 11. 9	フィランセ	うつ病について	高 木 啓	富士市保健部健康政策課

沼津リハビリテーション病院

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R1. 5. 30	第三・第四地域包括支援センター	いきいきとした生活を送る為に ～制度の理解とリハビリについて～	西 島 勇	第三・第四地域包括支援センター
9. 14	専門学校白寿医療学院	理学療法士の臨床・教育・研究	西 島 勇	専門学校白寿医療学院
10. 17	フジヤマ病院	看護師・介護士への嚆下勉強会	木 戸 智 世	フジヤマ病院
11. 13	「くるらの家」高齢者サロン	自宅でする運動について	西 島 勇	三浦・戸田地域包括支援センター
11. 17	ブラサヴェルデ	介護予防・日常生活支援総合事業 とリハビリテーション専門職の取 り組み	西 島 勇	静岡県リハビリテーション専門 職団体協議会
12. 18	第四地区センター	自宅でする簡単な運動と継続の コツ ～転ばないカラダづくり～	西 島 勇	第三・第四地域包括支援センター
R2. 1. 12	西伊豆失語症友の会	表出能力改善のための集団訓練	森 川 拓 哉	静岡県言語聴覚士会
2. 17	ダイハツ沼津店	ダイハツ工業 健康安全運転講座	西 島 勇	静岡県理学療法士会

訪問看護ステーションうしぶせ

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R1. 9. 30	ブラサヴェルデ	訪問看護ってどんなことをしてい るの？ 訪問看護の実際を紹介	松 川 香 織 塚 本 朋	静岡県訪問看護ステーション協 議会

社会復帰事業部

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
R1. 6. 4	静岡総合庁舎	精神保健福祉業務基礎研修会 「当事者体験談のサポート及び相談 支援事業所の活動報告」	畠 山 玲 奈	静岡県精神保健福祉センター
10. 15	静岡市こころの健康センター	こころのバリアフリープロモーター育 成講座「当事者インタビュー」	山 崎 将 展	静岡市こころの健康センター
10. 22	伊豆の国市役所大仁庁舎	精神の病気を持つ方の家族懇話会 「それぞれの自立生活を目指して～」	青 木 大 輔 池 田 友 美 小 山 千 菜 美	伊豆の国市自立支援協議会 伊豆の国市精神保健福祉会
10. 24	静岡県東部総合庁舎	家族のための精神保健福祉講座 「家族と本人を支える社会資源と制 度」	山 田 典 子	静岡県東部健康福祉センター
11. 29	静岡県東部総合庁舎	ピアサポーターフォローアップ研修 「駿東田方圏域のピアスタッフ活動状 況について」	石 川 淳 山 崎 将 展	駿東田方圏域地域移行部会

12.3	ふれあい沼津ホスピタル	地域移行部会病院説明会 「ピアサポーターについて」	石川 淳 山崎 将展	駿東田方圏地域移行部会
12.6	サンウェルぬまづ	2市2町市民後見人養成講座 「精神障害者の理解と接し方」	青木 絵里	沼津市社会福祉協議会
12.20	金谷北地域交流センター	精神障害者ピアサポーター実践研修 「リカバリーストーリー」について	石川 淳 山崎 将展	志太榛原地域自立支援協議会
〃	〃	精神障害者ピアサポーター実践研修 「バウンダリーについて」	大畑 志保 牛島 聖美	〃
R2.1.14	シズウェル	精神障害者地域移行定着推進研修 「リカバリーストーリー」	石川 淳	静岡県
2.4	下田総合庁舎	精神保健福祉業務実務研修 「ピアサポート活動について」	牛島 聖美 石川 淳 山崎 将展	賀茂地区障害者自立支援協議会地 域移行部会

〔2〕 嘱託医の受託

病 院	施 設 名	担 当 医
沼 津 中 央 病 院	地方公務員災害補償基金静岡県支部	杉 山 直 也
	静岡県公安委員会	杉 山 直 也
	〃	長 谷 川 花
	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂 晶
	名古屋国税局	坂 晶
	(福) 静香会 悠雲寮	伊 原 昇
	(福) 野菊寮	伊 原 昇
大 手 町 ク リ ニ ッ ク	(福) 宏寿会 遊法苑	伊 原 昇
	(福) 静香会 みのり工房	浅 倉 博 幸
鷹 岡 病 院	(福) 春風会 高尾園	道 部 晃
	静岡県警察本部	志 澤 容 一 郎
	(株)東芝キャリア	高 木 啓
沼 津 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	(株)ジーエイチクラブ	高 木 啓
	三生医薬(株)	高 木 啓
沼 津 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	(福) 信愛会 ぬまづホーム	杉 山 元 信
	(福) 信愛会 和みの郷	杉 山 元 信

〔3〕 実習病院の受託

病 院	委 託 施 設 ・ 機 関 等
沼 津 中 央 病 院	静岡県立大学 看護学部 静岡福祉大学 社会福祉学部福祉心理学科 聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部作業療法学科 国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科

	<p>順天堂大学 保健看護学部</p> <p>独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校</p> <p>静岡県立看護専門学校</p> <p>沼津市立看護専門学校</p> <p>御殿場市医師会附属御殿場看護学校</p> <p>日本精神科看護協会</p> <p>医療法人好生会三方原病院</p>
鷹 岡 病 院	<p>静岡大学大学院 人文社会科学部研究科</p> <p>山梨県立大学 人間福祉学部福祉コミュニティ学科</p> <p>静岡福祉大学 社会福祉学部医療福祉学科</p> <p>聖徳大学 通信教育部 心理・福祉学部心理学科</p> <p>静岡英和学院大学 人間社会学部人間社会学科</p> <p>常葉大学 保健医療学部作業療法学科</p> <p>聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部作業療法学科</p> <p>健康科学大学 健康科学部作業療法学科</p> <p>富士市立看護専門学校</p>
沼津リハビリテーション病院	<p>聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部作業療法学科・言語聴覚学科</p> <p>常葉大学 保健医療学部作業療法学科</p> <p>〃 健康科学部静岡理学療法学科</p> <p>健康科学大学 健康科学部理学療法学科</p> <p>国際医療福祉大学 小田原保健医療学部理学療法学科</p> <p>日本大学 短期大学部食物栄養学科</p> <p>独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校</p> <p>専門学校白寿医療学院 理学療法学科</p> <p>富士リハビリテーション専門学校 理学療法学科・作業療法学科</p>
訪問看護ステーションうしぶせ	<p>独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校</p> <p>静岡県立看護専門学校</p> <p>沼津市立看護専門学校</p> <p>沼津市立病院</p>
社 会 復 帰 事 業 部	<p>静岡福祉大学 社会福祉学部福祉心理学科</p> <p>聖徳大学 通信教育部心理・福祉学部社会福祉学科</p> <p>独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校</p> <p>御殿場市医師会附属御殿場看護学校</p> <p>沼津市立看護専門学校</p> <p>伊豆市立天城湯ヶ島中学校</p> <p>伊豆の国市立長岡中学校</p> <p>沼津市立今沢中学校</p> <p>三島市立錦田中学校</p>

〔4〕 大学・看護学校への講師派遣

病 院	施 設 名	講 師
沼津中央病院	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校 静岡県立看護専門学校 御殿場市医師会附属御殿場看護学校 沼津市立看護専門学校	清登 健太 鈴木 和 麻場 英聖 富田 敦 山田 まゆみ 飯塚 香織 牛島 一成 麻場 英聖 飯塚 香織 今井 亮太
あたま中央クリニック	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校	葛城 芳弘
鷹岡病院	富士市立看護専門学校 JA 静岡厚生連するが看護専門学校 健康科学大学 日本福祉大学	曾根 満寿代 久保 伸年 渡辺 睦子 曾根 満寿代 水野 拓二 山口 雅弘 山口 雅弘
富士メンタルクリニック	富士市立看護専門学校	鈴木 順一
沼津リハビリテーション病院	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター附属静岡看護学校	豊永 美幸
社会復帰事業部	沼津市立看護専門学校	青木 大輔 山下 圭美 山崎 将展

〔5〕 関連諸団体の活動 (管理者のみ)

病 院	活 動 内 容	役 職 名	担 当 者
沼津中央病院	日本精神科救急学会 日本精神科救急学会 医療政策委員会 静岡県精神保健福祉協会 沼津・御殿場地域産業保健センター運営協議会 日本医療評価機構 認定病院患者安全推進協議会 一般社団法人 日本自殺予防学会	理 事 長 委 員 長 評 議 員 委 員 委 員 理 事	杉山直也 杉山直也 杉山直也 杉山直也 杉山直也 杉山直也
鷹岡病院	全国精神保健福祉連絡協議会 静岡県精神保健福祉協会 静岡県精神科病院協会 しずおか精神障害者スポーツ推進協議会 静岡県障害者スポーツ大会 静岡県障害者スポーツ協会 認知症の人と家族の会静岡支部 富士市医師会 ユニバーサル就労を拓げる会	理 事 会 長 副 会 長 会 長 副 会 長 評 議 員 顧 問 監 事 顧 問	石田多嘉子 石田多嘉子 石田多嘉子 石田多嘉子 石田多嘉子 石田多嘉子 高 木 啓 高 木 啓 高 木 啓

〔6〕 公的機関の医療・福祉活動への協力

沼津中央病院

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
DPAT 運営協議会	委員	厚生労働省委託業務 DPAT 事務局	杉山直也
措置入院適正運営協議会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課 精神保健福祉班	杉山直也
静岡県自殺対策連絡協議会	委員	〃	杉山直也
静岡 DPAT 連絡協議会	委員	〃	杉山直也
静岡県精神科救急医療システム連絡調整委員会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課 精神保健福祉室	杉山直也
静岡県公安委員会	認定医	静岡県公安委員会	杉山直也
〃	〃	〃	長谷川花
沼津市自殺対策行動計画策定懇話会	委員	沼津市健康づくり課（保健センター）	杉山直也
清水町自殺対策推進連絡協議会	委員	清水町健康福祉課	杉山直也
駿東田方地域障害保健福祉圏域連絡調整会	委員	駿東田方地域障害保健福祉圏域連絡調整会	杉山直也
駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	委員	駿東田方圏域認知症疾患医療連携協議会	杉山直也
沼津警察署犯罪被害者支援連絡協議会	委員	沼津警察署	長谷川花
静岡県警察本部職場復帰相談医	相談医	静岡県警察本部	志澤容一郎
東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	委託医	東部健康福祉センター生活保護課生保審査会	坂晶
裾野市老人ホーム入所判定委員会	委員	裾野市福祉事務所 社会福祉室	坂晶
伊豆市老人ホーム入所判定部会	委員	伊豆市福祉事務所	坂晶
伊豆の国市老人ホーム入所判定部会	委員	伊豆の国市福祉事務所	坂晶
小山町老人ホーム入所判定部会	委員	小山町福祉事務所	坂晶
函南町老人ホーム入所判定部会	委員	函南町福祉事務所	坂晶
長泉町老人ホーム入所判定部会	委員	長泉町福祉事務所	坂晶
清水町老人ホーム入所判定部会	委員	清水町福祉事務所	坂晶
静岡県自立支援協議会地域移行部会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	麻場英聖
〃	〃	〃	澤野文彦
静岡県自殺対策連絡協議会	委員	静岡県	澤野文彦
沼津市自立支援協議会地域移行専門部会	部会長	沼津市	澤野文彦
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	東部健康福祉センター	澤野文彦
〃	委員	〃	久野満津代
静岡県精神障害者雇用推進アドバイザー事業	委員	静岡県	小野剛
静岡県ダイケア連絡協議会	理事	静岡県	小野剛

鷹岡病院

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
医道審議会医師分科会	医師分科委員	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部	石田多嘉子
静岡県精神科救急システム連絡調整委員会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	石田多嘉子
〃	〃	〃	高木啓
静岡県精神保健福祉審議会	会長	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	石田多嘉子
静岡県摂食障害対策推進協議会	委員	静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課	高木啓
静岡県医療観察制度運営連絡協議会	協議員	静岡保護観察所	高木啓
静岡地方労災医員	医員	静岡労働局	高木啓
一般医から精神科医への紹介システム運営委員会	委員	静岡県精神保健福祉センター	高木啓
富士市生活保護法審査会	委員	富士市福祉こども部福祉総務課	石田多嘉子

富士市老人ホーム入所判定委員会	委員	富士市福祉こども部障害福祉課	高木啓
富士市認知症施策推進検討委員会	副委員長	富士市保健部介護保険課	高木啓
〃	委員	〃	水野拓二
富士市障害者自立支援協議会代表者会議	委員	富士市福祉こども部障害福祉課	高木啓
富士市差別解消支援協議会	委員	富士市福祉こども部障害福祉課	高木啓
富士市自殺対策推進会議	会長	富士市健康政策課	高木啓
〃	委員	〃	久保伸年
富士宮市認知症医療研究会	委員	富士宮市福祉総合相談課	高木啓
静岡市精神医療審査会	委員	静岡市こころの健康センター	高木啓
富士圏域自立支援協議会	構成員	富士健康福祉センター	高木啓
富士圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議	委員	富士健康福祉センター	高木啓
富士圏域地域医療構想調整会議	委員	富士健康福祉センター	高木啓
富士圏域自殺未遂者支援ネットワーク会議	委員	富士保健所	高木啓
富士圏域措置入院適正運営協議会	委員	富士保健所	高木啓
富士市いじめ問題対策推進委員会	委員	富士市教育委員会	高木啓
富士市立中央病院臨床研修管理委員会	委員	富士市立中央病院	高木啓
富士宮市立病院臨床研修管理委員会	委員	富士宮市立病院	高木啓
静岡県看護職員確保対策連絡協議会	委員	静岡県健康福祉部地域医療課	曾根満寿代
静岡県精神医療審査会	委員	静岡県精神保健福祉センター	曾根満寿代
富士圏域自立支援協議会地域移行定着部会	部会長	富士健康福祉センター	山口雅弘
〃	構成員	〃	曾根満寿代
〃	〃	〃	川口恭子
富士市障害支援区分認定審査会	委員	富士市福祉こども部福祉総務課	山口雅弘
富士宮市権利擁護ネットワーク会議	委員	富士宮市介護障害支援課	山口雅弘
富士宮市成年後見制度体制整備検討会	委員	富士宮市介護障害支援課	山口雅弘

社会復帰事業部

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
静岡県相談支援従事者現任者研修	演習講師	静岡県	牛島聖美
静岡県相談支援従事者初任者研修	演習講師	静岡県	牛島聖美
〃	〃	〃	勝又美智子
〃	〃	〃	鈴木伸二
静岡県サービス管理責任者基礎研修	演習講師	静岡県	牛島聖美
熱海市障害支援区分等判定審査会	審査委員	熱海市	牛島聖美
沼津市障害者自立支援協議会	副会長	沼津市	牛島聖美
沼津市障害者自立支援協議会相談部会	部会長	沼津市	青木絵里
〃	〃	〃	鈴木伸二
沼津市障害者支援区分認定調査	調査員	沼津市	川口美紀
〃	〃	〃	内藤治子
長泉町障害者支援区分認定調査	調査員	長泉町	山下圭美
〃	〃	〃	新庄裕那
伊東市障害支援区分判定等審査会	審査委員	伊東市	鈴木伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部会長	熱海市・伊東市	鈴木伸二
〃	〃	〃	秋津崇史
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	熱海市・伊東市	鈴木伸二
〃	〃	〃	秋津崇史
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審査委員	伊豆市・伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議委員	伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム調査研究部会	部会長	伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市障がい者計画策定会議	委員	伊豆の国市	青木大輔

伊豆の国市障害支援区分認定調査	調 査 員	伊豆の国市	池 田 友 美
〃	〃	〃	小 山 千 菜 美
伊豆市地域自立支援協議会	副 会 長	伊豆市	青 木 大 輔
伊豆市地域自立支援協議会相談支援部会	部 会 長	伊豆市	池 田 友 美
富士市障害者自立支援協議会	副 会 長	富士市	小 山 隆 太
〃	〃	〃	長 谷 川 真 美
富士市障害者自立支援協議会連絡調整部会	部 会 長	富士市	田 尻 ゆ き
裾野市障害支援区分判定審査会	審 査 委 員	裾野市	杉 山 智 子
清水町障害支援区分認定審査会	審 査 委 員	清水町	勝 又 美 智 子

〔 7 〕 受託事業

所 属	受 託 事 業 名
鷹岡病院	静岡県精神障害者地域移行支援者連携事業 富士市認知症初期集中支援推進事業 認知症の人をみんなで支える地域づくり推進事業
社会復帰事業部	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業 静岡県精神障害者雇用推進アドバイザー業務

VIII. 職員配置状況

沼津中央病院

令和2年3月31日現在

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	15		8	-1		-3	14		5
看護職	112	3	10		1		112	4	10
介護職	27	4	2	-1	1		26	5	2
医療技術職	25	1	4	-4	1		21	2	4
福祉職	15			-4			11		
事務職	19	2		-2			17	2	
労務職	19	2	2	-6		2	13	2	4
合計	232	12	26	-18	3	-1	214	15	25

大手町クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	3	1	2	1		-1	4	1	1
医療技術職	1						1		
福祉職	1						1		
事務職	3						3		
合計	9	1	2	1		-1	10	1	1

あたま中央クリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	1						1		
看護職	2						2		
事務職	1						1		
合計	4						4		

訪問看護ステーションふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	10						10		
合計	10						10		

鷹岡病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	8		2		1		8	1	2
看護職	45	2	9	-2	-1	1	43	1	10
介護職	22	1	2	-3		2	19	1	4
医療技術職	13		4	3		-1	16		3
福祉職	13			-2			11		
事務職	11			1			12		
労務職	14		2				14		2
合計	126	3	19	-3		2	123	3	21

富士メンタルクリニック

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	2		1	-1		1	1		2
看護職	3						3		
医療技術職	2						2		
事務職	3		1				3		1
合計	10		2	-1		1	9		3

沼津リハビリテーション病院

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	4		15			4	4		19
看護職	39	1	11	2		-1	41	1	10
介護職	34	1	8	1	-1		35		8
医療技術職	52		11	-1			51		11
福祉職	4		2			-2	4		
事務職	12		2	1		-1	13		1
労務職	7	1	10	1	-1	-1	8		9
合計	152	3	59	4	-2	-1	156	1	58

訪問看護ステーションうしぶせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職	5		2			-2	5		
医療技術職	2			-1			1		
合計	7		2	-1		-2	6		

サポートセンターなかせ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	8		1			2	8		3
合計	8		1			2	8		3

サポートセンターいとう

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			2						2
福祉職	3						3		
合計	3		2				3		2

サポートセンターゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4						4		
合計	4						4		

サポートセンターほっと

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	4						4		
合計	4						4		

カーサ岡の宮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		1						1	
合計		1						1	

はまゆう寮

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
労務職			1						1
合計			1						1

グループホームふじみ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職			1						1
合計			1						1

グループホームふじみⅡ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
合 計			1						1

コーポ狩野

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
看護職						1			1
介護職		2	1			1	2		2
福祉職	2						2		
合 計	2	2	1			2	2	2	3

就労支援事業所かのん

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職			1						1
福祉職	4		1	1			5		1
労務職			5			-1			4
合 計	4		7	1		-1	5		6

ワークショップまごころ

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職		2	4					2	4
福祉職	2						2		
合 計	2	2	4				2	2	4

就労支援事業所田方・ゆめワーク

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
介護職						1			1
福祉職	3			-1			2		
事務職			1						1
労務職			3			2			5
合 計	3		4	-1		3	2		7

本 部

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
福祉職	1						1		
事務職	11						11		
労務職	1						1		
合 計	13						13		

合 計

職種	前期末在籍数			期中増減			当期在籍数		
	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤	正職員	準職員	非常勤
医師職	31		26	-2	1	2	29	1	28
看護職	219	7	35	1		-2	220	7	33
介護職	83	11	21	-3		4	80	11	25
医療技術職	95	1	19	-3	1	-1	92	2	18
福祉職	64		4	-6			58		4
事務職	60	2	4			-1	60	2	3
労務職	41	3	23	-5	-1	2	36	2	25
合 計	593	24	132	-18	1	4	575	25	136

※管理者含む